

日本 OECD 共同研究
国際共創プロジェクト「壁のないあそび場-bA-」 概要書

1. はじめに

教育は、社会・文化的な営みです。ともすると、国や地域内の閉じた営みになり、知らず知らずのうちにいくつもの「当たり前」が生まれます。それは社会の分断を加速させることにもなります。「仕方がない」とやりすごし、我慢したり、あきらめたりする人の増加は、はたして民主主義社会の健全な姿でしょうか。一方で、問題意識をもつ教育関係者の取り組みは散見されるが、教育エコシステムの中では、まるで砂漠に水をまくがごとく一瞬の潤いにしかならない現実もあります。社会全体で教育のアップデートをしていかなければならなりません。それにはこえなければならぬ壁がいくつもあるし、取り払わなければならぬ壁もあります。

日本では、かつては子どもが就きたい職業の上位にあった教職も、いまでは下降を続けています。子どもの目にも、教師が輝いて見えなくなったり、学校という「場」の魅力が感じられなくなったりしているのかもしれませんが。世界から見ると、こんな日本の教育はどう見えるのでしょうか。私たちが気づいていない「よさ」は残っていないのでしょうか。

「OECD 東北スクール」のスピリット（過去を超える、常識を超える、国境を超える）は、日本の教育の底力、自律的向上機能の現れであると考えています。それを起点に、子どもたちや先生たちの現場の声に寄り添う形のボトムアップ型で 2040 年の教育、カリキュラムの姿を探りたい。それなくして、壁のない、みんなが Well-being である社会は実現しないと考えています。

これまでの OECD との取り組みの中で、こんな私たちの想いを共有できる仲間が世界中にいることがわかってきました。この輪をもっと広げたい。そして一緒に、ボトムアップ型の 2040 年の教育を下記のフレームで共創していきたいと考えています。

- ◇ ボトムアップには、個々のエージェンシーの発揮が不可欠。より多くの人を楽しみながら、やりがいを感じながら取り組めるように、「あそび」の精神を中心におく。【壁のないあそび場-bA-】
- ◇ コレクティブ・ディープ・インパクトになるように、点を線、線を面に広げていけるよう、多様な分散型の取り組みを支援し、ボトムアップ型のカリキュラムの構成方法（社会全体の教育観、価値観のアップデートを含む）のプロトタイプを示す。【座システム】
- ◇ これらの活動のプロセスで、学びの当事者である児童生徒を含む、参画者のエージェンシーの変容を追う。【プロセス評価の開発】

これらの一通加點として、2024年にパリにて国際共創イベントを行い、対話の機会としたい。それは共創の輪を一層広げるとともに、社会文化的な営みである教育へのインプットの機会になると考えています。

東京学芸大学 理事・副学長 松田恵示

2. 日本 OECD 共同研究 国際共創プロジェクト「壁のないあそび場-bA-」とは

国際共創プロジェクト「壁のないあそび場-bA-」(2022-2024 年度実施予定)は、日本 OECD 共同研究の枠組みで、東京学芸大学教育インキュベーション推進機構内に事務局を設置し、OECD からの協力を得て、国内外の多様な学校(教師、生徒・学生)、自治体、教育委員会、研究者、企業、省庁、NPO 等と協力しながら、産官学連携での運営を目指しています。

本プロジェクトでは、OECD ラーニングコンパス(学びの羅針盤)で提案されているように、生徒・学生たちがエージェンシーを発揮し、2030年の世界を豊かに生きていけるよう、教育の目的、学校の在り方の本質を問い直していきます。また本学は、教員養成フラッグシップ大学として、この共同研究を通して、日本のこれからの学校教育を担う教師の育成を先導し、世界とのつながりの中で教員養成の在り方自体の変革を、リードしていきたいと考えています。

「壁のないあそび場-bA-」は、東日本大震災の復興支援事業である OECD 東北スクール(2012-2014)¹の後継プロジェクトです。東北スクールのスピリットである「過去を超える、常識を超える、国境を超える」を引き継ぎ、更に東日本大震災から10年の節目の2021年3月に開催された、OECD と福島大学による共同開催(東京学芸大学協力)ワークショップ「あれから。これから、」²と、2022年3月に OECD と東京学芸大学により「壁を超える」をコンセプトに開催されたワークショップがもとになり、デザインされています。

いじめ、不登校、受験のプレッシャー、教師の過重労働など、現在の学校や社会の様々な課題に対して、これまでの“あたりまえ”や“常識”により生まれている様々な立場、偏見、価値観などといった“壁”を一度取り払い、新しい未来の教育のカタチを、今の時点で実装し、それを多様なメンバーでインパクト評価することで、次の教育政策に活かしていくことを目指しています。

3. プロジェクトの構成

本プロジェクトは、国内外の生徒・学生、教師・学校、大学、自治体・教育委員会、NPO、企業などが、「座」を構成し、新しい未来の教育のカタチを、今の時点で実装し、それを多様なメンバーでインパクト評価する試みを始めています。ここには、OECD からの協力を得て、海外の学校や研究者も参加していく予定です。

また「座」が一堂に集まる国際ワークショップを年2回(8月、3月予定)開催し、ネットワーク化と共創を推進します。そして、2024年には、パリにおいてプロジェクトに参加したメンバーによるパリ祭(仮)の実施を視野に、活動を進めています。

これまでの実績として、2022年8月27日、28日に、東京学芸大学・OECD 共同で開催された、国際

¹ OECD 東北スクール-: OECD 東日本大震災の復興支援事業として、震災で被災した約100名の中高生が、教師、企業、自治体など、様々な他者と協働しながら、地域復興に参画したプロジェクト

² 「あれから。これから、」企画実行委員生徒たちの想い
[私たちの想い | あれから。これから、\(jupiter354.wixsite.com\)](http://jupiter354.wixsite.com)

共創プロジェクト：壁のないあそび場・bA・場開きワークショップには、アンドレアス・シュライヒャー OECD 教育スキル局長からもビデオメッセージをいただき、「これまでの“あたりまえ”や“常識”」を問い直す<場>を設定しました。総合司会は、日本から大学生と、ろう学校の生徒さんに加え、カナダの大学生がオンラインで共創。また、OECD ラーニングコンパスの中核概念である、Well-being やエージェンシーを本質でつなぐ「being（今ここにある自分）」を「過去/現在/未来」の時間軸で、他者の being と交わることを通して自らの「being」を捉え直すきっかけを提供する「座」や、テストのイメージの強いさんすう数学を、不思議な立体図形をつくり遊ぶ体験を通じて、壁のないさんすう数学を提案する「座」など、新しい教育の姿を体現しました。詳細は[こちら](#)を参照ください。

4. 参画をご検討の皆様へ

国際共創プロジェクト「壁のないあそび場・bA・」は、一人一人の壁を超えたい、という思いからスタートします。そしてその壁を超えるために、ネットワークと知見を活かして、多様な人たちとの出会いをつなげ、ボトムアップの改革を目指します。このプロジェクトの実践の核となる、多様な学校・教育委員会様の参画をお待ちいたします。

東京学芸大学 日本 OECD 共同研究
国際共創プロジェクト運営事務局
Email: collective@u-gakugei.ac.jp